

阿南 ぶらりまち紀行

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見！

～地域の輝き～

第148回

赤ちゃん授業



あやし方を教える実行委員



手遊びのようす

「お母さんへ、私を産んでくれてありがとう」「将来子どもができたなら、責任を持つて育てようと思います」
 (赤ちゃん授業を受けた生徒の感想)

阿南市赤ちゃん授業実行委員会は平成27年度に発足。市内の中学校10校を巡回し、生徒が赤ちゃんとその保護者との交流を通して命の尊さや親の思いに触れることのできる授業を行っている。生徒50人ほどに対し10組以上の母親や父親が赤ちゃんを連れて「子育てのことを知ってほしい」と参加する。さらに1組の親子に対して1人以上の地域のボランティアが付き添い、安全に交流できるように見守っている。赤ちゃん授業はたくさんの人たちの思いで実現している。

今年行われた那賀川中学校での赤ちゃん授業(2回講座)を取材した。

1回目の授業、生徒は助産師から妊娠や出産について学び、赤ちゃんの行動や成長についての話を聞いた。体験学習では生まれて6カ月前後の赤ちゃんを抱いたりミルクをあげたりした。「赤ちゃん



赤ちゃんをしっかりと支える



お母さんから学ぶ

は本当に可愛い」と優しい顔になる生徒たち。「今まで赤ちゃんは勝手に寝るものだと思っていたけど、眠たくなったら何をしても泣きじゃくることに驚いた」、「抱っこすると赤ちゃんが笑顔になってくれてストレスが吹き飛んだ」、「この小さな命を自分が親の立場になって感じてみたい」など、授業後にはたくさん感想が寄せられた。

2回目の授業では前回交流した赤ちゃんと5カ月ぶりに再会。生徒は手作りした絵本やおもちゃをプレゼントして赤ちゃんと一緒に遊んだ。参加した母親の竹治李里さんが「子どもの健康が一番大切」と、生徒に自身の経験談で子どもの幸せを願う思いを伝えると、親が子どもを思う気持ちがわかったと感動して涙ぐむ生徒もいた。

赤ちゃんに関わった経験がないまま親となり、核家族で悩みながら子育てをしている家庭が多くなっている。だからこそ、学校で赤ちゃんに関する知識を得て、赤ちゃんに対する愛おしさを感じる経験が大切だと思う。赤ちゃん授業は、笑顔と笑い声に包まれた、とても幸せな気持ちになる授業だった。